

令和 7 年度 事業報告書
(2 0 2 5 年度)

学校法人 箕面学園

I. 学園概要

1. 設立目的

天賦の才能を十分に伸長させるとともに、男女それぞれの特性を生かし、品性の高い教養ある人間を育成する。穏健な思想、円満な良、国家社会のよりよき一員をたらしめる。

2. 学園沿革

昭和21年	3月	財団法人箕面高等女学校設置認可 開校
昭和23年	4月	学制改革により箕面学園中学校、高等学校を開設 現在地に新校舎を竣工、移転
昭和24年	4月	箕面学園附属幼稚園を開設
昭和26年	3月	学校法人箕面学園に組織変更
昭和28年	4月	大阪学芸大学(現・大阪教育大学)の指導により 箕面学園幼稚園教員養成所開設(後・箕面学園福祉保育専門学校)
昭和31年	4月	箕面学園幼稚園教員養成所を同保育専門学校に改称
昭和38年	4月	鉄筋コンクリート造3階建南館、増築
昭和39年	3月	鉄筋コンクリート造4階建本館、増築
昭和40年	1月	体育館兼講堂等鉄筋コンクリート造地上3階地下1階
昭和50年	12月	保育専門学校 新校舎竣工
昭和51年	4月	附属幼稚園 新園舎竣工
昭和58年	3月	図書館(以文館) 新築竣工
昭和61年	3月	創立40周年記念 光風館新築竣工
平成4年	2月	高校セミナーハウス(湖西学舎)新築竣工
平成6年	6月	茨木グランド(茨木市泉原)竣工
平成9年	10月	創立50周年記念式典挙行
平成10年	4月	池田キャンパス開設(作業療法学科新設)
平成26年	10月	北館、南館、保育専門学校、幼稚園 耐震補強工事竣工
平成27年	10月	本館耐震補強工事及びトイレ等改修工事竣工
平成27年	11月	創立70周年式典並びに祝賀会を挙行
平成28年	8月	高等学校食堂リニューアル改修工事竣工
平成29年	8月	グランド人工芝化竣工
平成30年	10月	高等学校クラブハウス竣工
	10月	幼稚園増築棟、既存保育室リニューアル工事竣工
平成31年	4月	幼稚園型認定こども園箕面学園附属幼稚園 認可
令和元年	9月	東館一部改修(支援教室)
令和2年	10月	北館体育館改修工事竣工、空調新設
令和5年	8月	北館2階特別教室を改修
令和6年	8月	北館1階特別教室を改修
令和7年	3月	福祉保育専門学校 介護科福祉科 閉科

令和 8 年 4 月 高等学校 2 期制に移行

3. 役員の概要 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

理 事 6 名 監 事 2 名 評議員 7 名

4. 法人設置校及び施設

「箕面学園高等学校」 普通科総合選択制 箕面市箕面 7 丁目 7-31

「箕面学園福祉保育専門学校」 保育科、作業療法学科

箕面キャンパス 箕面市箕面 7 丁目 7-31

池田キャンパス (売却・賃借中) 池田市八王寺 1 丁目 1-25

「幼稚園型認定こども園箕面学園附属幼稚園」

3 年保育 箕面市箕面 7 丁目 7-31

「箕面学園第二グラウンド」 茨木市泉原 3-9-1

「箕面学園湖西学舎」 (売却中) 滋賀県大津市和邇中 3-5-7

5. 経費

(1) 支払報酬手数料等、学園で合算できる経費について見直しを行ってきたが、
今後もより一層見直しを図り経費削減に努めていきたい。

(2) 購入物品等は稟議書にて諮る事で経費の削減に努めた。

6. 施設整備事業

特になし

7. 学校評価への取り組み

幼稚園、高等学校で、PDCAに基づき学校評価、学校関係者評価を実施し
公開する。

8. 法人業務の取組

令和 7 年度は、理事会を 12 回、評議員会を 5 回開催し、学園の財政状況につ
いて短期的な計画を急務とするため、プロジェクトチームを発足し、教職員の
給与体系の見直し、各種手当の見直し等、主に人件費についての様々な意見が
交わされており、令和 8 年度も引き続き行っていく。

また、専門学校保育科の令和 9 年度より募集停止の決定、池田キャンパスの売
却検討議論及び売却報告を行った。

Ⅱ．箕面学園高等学校

1．令和7年度 募集人員

210名 普通科総合選択制

2．令和7年度在籍数（令和7年5月1日現在）

1年 111名

2年 180名

3年 151名

合計 442名 （男子383名、女子59名）

3．生徒募集

（1）入試担当者による入試広報活動（広報活動）を強化し、高等学校管理職とのミーティングを毎月実施し情報共有に努めた。

（2）オープンキャンパス、入試説明会、学校説明・相談会を実施した。
また、外部で開催される説明会、相談会にも積極的に参加した。

（3）入試を3回実施し、合計111名の入学者を確保した。

4．ICT化

（1）生徒のタブレット端末を使用した授業を行ない、各教科で工夫をこらした授業を展開した。また、BLENNDを導入し出欠確認、欠席連絡、各種連絡、成績確認等、校務だけではなく、保護者生徒共に活用することができるようになった。

（2）生徒、保護者共にICT関係の普及が進んだ。

5．環境整備

（1）危険箇所の点検、整備を行った。

6．教職員研修

人権研修、総合的な探求の時間に関する研修を実施し、教職員間での情報共有を行い、教職員の意識、教育の質の向上に努めた。また、個々の教員研修の案内を共有し、参加を勧めた。

7. 高大連携協定

大阪学院大学、芦屋大学、大手前大学、大阪産業大学
びわこ成蹊スポーツ大学

8. 生徒の各推移

(1) 転退学率推移

年 度	期 首	離脱数	期 末	離脱率
R 4	5 6 3	3 1	5 3 2	5. 5 %
R 5	5 5 8	3 1	5 2 7	5. 6 %
R 6	5 5 0	3 9	5 1 1	7. 1 %
R 7	4 4 2	2 6	4 1 6	5. 9 %

(2) 令和7年度 進路状況 146名卒業

① 大学・短期大学 合格者（抜粋）

京都産業大学	1名	摂南大学	6名
神戸学院大学	2名	追手門学院大学	2名
桃山学院大学	4名	京都外国語大学	1名
大阪経済大学	2名	大阪体育大学	2名
立命館大学	1名	他	

〔協定校〕 芦屋大学	1名	大阪学院大学	14名
大手前大学	9名	大阪産業大学	18名
びわこ成蹊スポーツ大学	1名		

② 専門学校 31名が専門学校へ進学

大阪動植物海洋専門学校	2名
清風情報工科学院	1名
箕面学園福祉保育専門学校	2名
尼崎健康医療財団看護専門学校	1名
大阪外国語・ホテル・エアライン専門学校	1名
東洋医療専門学校	3名

③ 斡旋就職（抜粋）

伊藤ハム、ダイハツメタル、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社中山製鋼所、コカ・コーラボトラーズジャパンベンディング株式会社、東洋水産株式会社、株式会社きんでん、山崎製パン株式会社、日本郵便株式会社

Ⅲ. 箕面学園福祉保育専門学校

1. 専門学校組織改編

専門学校の組織を中長期的に見直し検討を行った。

- ・介護福祉科の令和6年度生募集停止に伴い、令和7年8月7日閉科
- ・作業療法学科の令和7年度生募集停止に伴い、令和9年度閉科

2. 募集活動

- (1) 渉外担当者による近隣の高校訪問等を重点的に行い学生募集の充実を図る。
 - ・保育科のみとなる。
- (2) 特別指定校を増やし、高等学校等との連携強化を図り入学者増へと繋げる。
 - ・大学との差別化を図る。
- (3) 高等学校等における単独開催の学校説明会や校外説明会など積極的に参加し、専門に特化した内容や学校の知名度を上げた。
 - ・四季の制作体験 ・乳児の沐浴指導
- (4) 入試の回数を増やし学生の確保に努めた
 - ・土曜、日曜の午前、午後にも対応
- (5) 同一法人の対応の強化 同系専門学校との差別化を図る
 - ・幼稚園免許・保育士資格のダブル免許 ・初心者向けピアノ対応

3. 広報活動

- (1) 募集定員確保のため、計画的な取り組みを検討し、高校生の進学進路の決定が早くなるため、早期からの企画を実施した。
 - ・時間割に就職ガイダンスを組込む
- (2) 専門学校の特徴・学生の頑張りを広く内外に発信した。
 - ・即戦力向上のため AED,アレルギー応急処置などの技術実習
- (3) 学校組織の連携を密にし、情報の共有を図った（大専各連より、中学校への出前授業の依頼対応。茨木市立太田中学校、豊中市立豊中第三中学校）（箕面学園高等学校の学校案内も持参対応）
- (4) 近隣高校にて、学校独自の出前授業開催（進路指導部と連携）
大阪高校、大商学園高等学校、第一高校、大阪府立牧野高等学校、大阪府立吹田高等学校、猪名川甲英高等学校、兵庫県立伊丹北高等学校、箕面学園高等学校各校の学生対応に、もの作りを通して保育の良さを体感する。
- (5) HPやSNSを最大限活用
 - ①社会人向け案内ページの増加
 - ②学校行事などの写真を多く載せ、他校との差別化を図った
 - ③SNSを活用し情報を発信した
- (6) AO入試制度のシステム変更と継続
- (7) オープンキャンパスに加え、学校説明会・体験学習を開催した

体験学習には在校生も参加協力する。

4. 継続する施策

- (1) 「環境整備」、「就学支援金」については、引き続き有効なものとして継続した
- (2) 学内奨学金の授与
卒業式で「学園長賞」、入学式で、在校生に「学園長賞」を授与する。

5. 文部科学省中央教育審議会実施視察、および課程認定校の申請に対する準備

引き続き下記の項目について整備を行った。

- (1) 全学的組織の確立と諸規定（カリキュラム委員会規程含む）の準備
- (2) 教育課程、履修方法およびシラバスの整備
- (3) 教育実習の実施計画、教育実習校の選択・連絡等
- (4) 施設・整備等の整備（図書の実質、教員研究室、就職支援室の整備）
- (5) 就職指導の徹底
保育現場で活躍している卒業生を招いて対応した。
またキャリアコンサルタントを招いて対応した。
- (6) 指導大学（大阪教育大学）および教育委員会等との連携強化
- (7) 学校現場体験・学校支援ボランティア活動の強化（附属幼稚園との連携強化：例年の運動会に加え、合同避難訓練等）

6. コロナ感染症等によりオンライン授業等の取り組みを行う。

この取り組みを活かして ZOOM 対応している

7. 大阪府医事グループの視察

作業療法士学校養成施設改善検討委員会による養成施設における、総単位数、専任教員の要件、施設の備品等様々な見直しがあり、それらの対応を進めた。

8. 諸規定並びに内規等の全面見直し、改訂、作成を実施した

入試特典の見直しを図る（入学金減免額の変更等（AO 入試等））

9. 大阪府委託訓練事業

令和 6 年度は、保育科が認定され 10 名が在籍となり、7 名が修了する。。

令和 7 年度は、保育科が認定され 12 名が在籍となった。

IV. 箕面学園附属幼稚園

1. 園児募集活動の展開

教育内容や活動の「見える化」を工夫し、積極的に発信した。プレ保育・かるがもでーの取り組み内容についても充実を図り、情報発信の方法を改善した。

かるがもでーについては、これまで H.P.で開催日の告知を行っていたが、箕面市の「もみじだより」にも掲載してもらうようにした。申し込み方法も、従来の電話受付に加え、Google フォームからの申し込みが可能となるよう改善した。

また、在園児および保護者からの信頼と満足感が PR につながるという認識のもと、保育・教育活動を展開した。

2. 研修の充実と実践的指導力の向上

オンデマンド研修と対面研修のそれぞれの良さを生かし、受講しやすい環境を整えた。

また 2026 年度は「保育環境」をキーワードに園内研修を行い、環境整備にも取り組んだ。

3. 安全・安心の確保

毎月の避難訓練では、火災や地震などの自然災害に加え、不審者対応など、さまざまな状況に備えた訓練を実施している。

日常的な施設点検や保守を行い、安全管理の徹底に努めている。

4. 教育充実費にふさわしい開かれた幼稚園づくりと説明責任

園活動の充実を図るとともに、H.P.、月 1 回の園だより、週 1 回のお知らせ、担任によるクラスだより、日々の園長メール、さらに「10 の姿」と連携した保育ドキュメンテーションを通して、保育の意図を理解していただけるよう情報発信を行った。自己評価などの情報は H.P.で公開した。

また、高校・専門学校・近隣小学校・関係機関との連携にも努めた。

5. 円滑な園運営と子育て支援

箕面市をはじめとする行政機関との連携を図り、業務の円滑な遂行に努めている。

新 2 号を希望する保護者には、2 号認定と同等の給食提供を行った。

預かり保育、週 1 回の子育て相談、「かるがもでー」、キンダーカウンセラー事業などを通して、子育て支援の充実にも取り組んだ。

6. 教職員のワーク・ライフ・バランス対応

教職員の処遇改善を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスのとれた働き方改革を推進している。